



**Data**

監督・脚本：ピエール・ショレール  
 出演：ギヨーム・ドパルデュー/マックス・ベセット・ド・マルグレーヴ/ジュディット・シユムラ/オーレ・アッティカ/パトリック・デカン/マツテオ・ジョヴァネッティ/ブリジット・シィ/フラン・ブルノー/フィリップ・デュパーニュ

## 👁️👁️ みどころ

ベルサイユといえば華やかな宝塚歌劇の『ベルばら』が頭に浮かぶが、本作はそれとは正反対の暗いもの？ベルサイユ宮殿の森のはずれにたくさんのホームレスが生活しているとは！森の中でダミアンと出会ったことによって、5歳の息子エンゾをダミアンに託する母親ニーナの価値観とは？また、せっかく認知までしたのに、再び家を出て行く根っからのホームレスとも言うべきダミアンの価値観とは？やっぱりフランス映画は奥が深い。アメリカ発の世界的金融危機が全世界を襲い、失業、生活保護、ホームレスの増大が避けられない今、本作から学ぶべきことが多いのでは？

## 同じ「ベルサイユ」でも大違い！

池田理代子原作の『ベルサイユのばら』は宝塚歌劇としても大ヒットしたが、同じベルサイユ宮殿をテーマとした作品でも『ベルサイユのばら』と『ベルサイユの子』とは大違い。『ベルばら』では何とんでも男装の麗人オスカルがキーパーソンだったが、『ベルサイユの子』では5歳の男の子エンゾ（マックス・ベセット・ド・マルグレーヴ）がキーパーソン。また『ベルばら』では、17世紀フランスの繁栄の象徴であるベルサイユ宮殿における華やかな宮廷文化が注目的だったが、『ベルサイユの子』では？

まずはパリ郊外にあるあの華やかなベルサイユ宮殿の森のはずれに、多くのホームレスが生活しているという実態にビックリ。アメリカ発の金融危機が全世界を襲う中、2008年末から09年正月にかけては日本でも派遣村が社会的に大きく注目されたが、さてフランスでは？

## 注目は5歳のマックス少年！

天才子役は観客の心をわしづかみにするものだが、本作におけるそれは5歳の男の子エンゾを演じたマックス・ベセット・ド・マルグレーヴ少年。映画初出演ながら、第61回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門に出品された本作が静かな感動の涙で包み込まれたのは、何よりもマックス少年の功績。

映画の冒頭、母親ニーナ（ジュディット・シュムラ）の手に引かれながら凍てつくパリの街角をさまようエンゾの姿が映し出されるが、その表情は？またニーナが、社会での生活を拒否して既にホームレスとして森の中で生活しているダミアン（ギョーム・ドパルデュ）と出会い、肌を重ね合わせて一晩を過ごした後、エンゾを残して去って行った後、怒りに震えるダミアンに向かい合うエンゾの表情は？さらに、「もう森には帰らない」と決心したダミアンが、やっと父親のジャン＝ジャック（パトリック・デカン）と新しい伴侶ナディーヌ（オーレ・アッティカ）のもとで「社会復帰」したかに見えた後、再び家を出て行ってしまふダミアンを見つめるエンゾの表情は？

ハリウッドの名子役としてはダコタ・ファニングが、日本の名子役としては安達祐実がもっとも有名(?)だったが、彼女たちは既に立派な大人。さあそんな今、5歳のエンゾ役を見事に演じたマックス少年の今後は？



(C) Les Films Pelleas 2008

## ホームレスは負け犬？それとも？

アメリカ発の金融危機が世界的に広まり、世界的経済不況が各国を襲う中、G20（主要20カ国・地域首脳会議）による第2回金融サミット（緊急首脳会議）は09年4月2日、G20として10年の世界成長を盛り込んだ共同声明を採択しその克服に大わらわ。しかし、当分の間は失業と生活保護、ホームレスの増大は避けられそうにない状況だ。

そんな時代状況にピッタリ合わせるかのように本作が公開されるが、ダミアンや森の中で死亡したトニ（フィリップ・デュパーニュ）などホームレスの先達たちは、明らかに自分の意思で社会からの離脱とホームレスへの途を選んでいることがよくわかる。しかし、どうもニーナは違うよう。つまり、ニーナは主観的には普通の生活を望んでいるのに、さまざまな面でそれに対応する能力が欠如しているため、嫌々ホームレスに落ちぶれている感じ。

そうすると、ダミアンや森に住むホームレスの先達たちは少なくとも主観的には負け犬ではないが、ニーナは主観的にも客観的にも負け犬？しかし、『スラムドッグ\$ミリオネア』（08年）では負け犬のジャマール少年は2000万ルピー（約4000万円）を獲得できたうえ、彼女と再会することができたのだから、ニーナだって何らかの形で社会復帰やエンゾとの母子の絆の復活は可能では？

## 認知手続きをどう評価？

ダミアンがエンゾの将来を考え、それまでのホームレス生活を悔い改めて生業に就き、父親と仲良く生活するのは本来望ましいこと。しかし、そのために適当な事実をデッチあげて市役所の担当者や裁判官を騙し、父親としてエンゾを認知した手続きに弁護士私のしては多少抵抗がある。だって、父子関係のないダミアンとエンゾの間に、認知によって父子関係が生じるのは本来おかしいはずだから。

もっとも、実態としてはそれによってダミアンとその父親ジャン＝ジャックそしてその若い伴侶ナディーヌの関係が良好となり、その結果エンゾにもひとときの安らぎが訪れたのだから、それでいいじゃないかと考えるのも一説。そこで問題は、やっと正業に就き社会復帰を果たしたかにもえたダミアンが、再び家を出て行ったこと。ダミアンはなぜ？

## ニーナはなぜ？ダミアンはなぜ？

5歳の男の子エンゾは、生みの母親ニーナが森の中でダミアンと出会ったことによって、ニーナから棄てられる（？）ことになる。これはある意味ではきわめて無責任な母親としての行動だが、ニーナはなぜそんな行動を？そこらあたりが、このフランス映画の奥が深いところ。

また、やっとエンゾがダミアンになつき、ダミアンもエンゾに対する愛情を深め、法的

にきっちり認知手続までしたのに、なぜダミアンはエンゾを残して1人家を出て行ったの？しかも私が観ている限り、この時点ではやっとダミアンも仕事が生につかかっていたというのに……。そこからあたりも、このフランス映画の奥が深いところ。

他方、5歳の少年エンゾの森社会（ホームレス社会）からの離脱と学校を核とした社会への復帰が大変なことはこの映画を観ているとよくわかる。今まで同年代の子供たちと接したことがなかったエンゾが、いきなり同年代のコミュニティに溶け込みなさいと言われても、それが困難なことは明らかだ。しかして、ダミアンが父親の家を出て行く時、私はエンゾもきっとダミアンの後をついていくのではと一瞬思ったが、ピエール・ショレール監督が本作で描くストーリー展開はその逆。やっぱりフランス映画は奥が深い。

## ニーナとエンゾのこれからは？

本作はラスト約10分において、7年後のエンゾ（マッテオ・ジョヴァネッティ）が登場する。エンゾは法的に認知したことによって父親となったダミアンが家を出て行った後、ダミアンの父親ジャン＝ジャックとその伴侶ナディーヌの下で成長していたが、今彼のもとの生みの母親であるニーナからの手紙が届いていた。さて、その手紙に書かれていた文章とは？そして、それを読んだエンゾがとった行動とは？

ニーナからの手紙にエンゾがいくら拒絶反応を示しても、結局手紙の指示どおりエンゾがニーナに会いに行くことはミエミエ。生みの母親であるニーナと今や12歳に成長したエンゾが再び出会い、母と息子の関係を確認するのはいいのだが、さてニーナは今きちんと社会に適合し、一定の収入と生活の拠点を持ち、エンゾをきちんと養育することが主観的にも客観的にも可能なの？そうであれば本作の結末はハッピーエンドだが、もしそれがニーナの一時の気分によるものであれば、この先再び波乱の可能性も。

本作のラストシーンは一瞬で終わるが、きわめて印象深い。そんな本作の名ラストシーンをじっくりと……。しかして、ニーナとエンゾのこれからは？

2009（平成21）年4月8日記

## 表紙撮影の舞台裏（10）

『シネマルーム』はシリーズとして2冊も続いてきたが、そうすると大変なのは表紙づくりのアイデアとその撮影。思い返せば、『シネマルーム』の表紙は概ね次のように分類できる。

（A）『シネマ3』『シネマ13』『シネマ14』の試写室シリーズ、

（B）おのみち映画資料館の前で撮った『シネマ8』、『男たちの大和/YAMATO』の撮影のために尾道につくられた戦艦大和のロケセットをバックに撮った『シネマ9』、広島原爆ドーム前で撮った『シネマ15』、中国の北京電影学院の前で撮った『シネマ17』などの、旅行シリーズ、

（C）大阪城をバックにした『シネマ18』、万博公園の太陽の塔をバックにした『シネマ16』、大阪市中央公会堂をバックにした『シネマ20』などの、大阪のまちシリーズ、

（D）満面の笑みで左手に映画検定4級の合格証を持ち、右手を空に突き上げた『シネマ10』、事務所の前で愛用のママチャリを手に撮った『シネマ11』、日曜日毎に通っているフィットネスクラブのプール前に立った『シネマ12』などの、生活密着シリーズ、などだ。

他方、（E）プロのカメラマンに撮影を依頼したのは、『シネマ2』『シネマ3』の他、神戸の南京町で撮った『シネマ5』、事務所のすぐ近くにある編集スタジオで撮った『シネマ7』、そして中央

公会堂前で撮った『シネマ20』、また（F）『シネマ10』と『シネマ20』の「節目号」は、それまでのすべての表紙をコンパクトに見せる職人技。さらに（G）韓国映画特集の『シネマ19』は焼肉料理の名店「済州島」が背景という手のこんだものだった。しかし、きっと皆さんが驚愕したのは、（H）事務員お手製の赤いベストを着て赤い帽子を被り、「還暦おめでとう」のくす玉に微笑む還暦記念号の『シネマ21』だろう。こりゃ失笑モノでは？と恐れつつ、これが書店に並んだインパクトは？

そんな表紙撮影にまつわる舞台裏をはじめてコラムにしたのが『シネマ7』の「表紙撮影の舞台裏・・・？」だったが、そのコラムも今回で10本目となったからすごい。しかし、「お薦め50作」と装いを新たにした『シネマ22』の表紙は桜一色となった。現在、橋下徹知事の掛け声によって「水都大阪」のイベントが盛んだが、事務所のすぐ近くにある大川沿いの桜はそりゃ見事なもの。その場所は京阪天満橋駅のすぐ北側だ。美しい桜並木をバックに微笑む私の顔は、春爛漫の風景にふさわしく珍しく濃厚？そして、ピンク色の桜に、のふさふさとした白髪がいかにもピッタリ？素人のモデル、素人の撮影としてはデザイン、レイアウトとも立派なものだと自負しているが、さて皆様のご意見は？

2009（平成21）年6月9日記